

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300139		
法人名	社会福祉法人 久住会		
事業所名	グループホーム 敬寿		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野1751番地		
自己評価作成日	平成23年4月1日	評価結果確定日	平成23年6月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者9名中6名が90歳以上で有るにも拘らず、活発に生活しておられる。毎日のドリル・リハビリ体操・食事前の手洗い・嚥下体操・毎食後の口腔ケアで認知症の進行予防、健康衛生面に配慮した処遇を実施している。又、併設型である利点が理容・美容のボランティア利用や地域の方を招待しての大規模な行事・様々な活動への参加が出来る事である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内には、軽費老人ホーム、ケアハウスが併設されており、施設全体で町内会の一の組としての活動を行っている。敷地内のゲートボール場は地域住民のサークル活動にも利用され、また、近隣住民の協力を得ながら毎月避難訓練が行われる等、特筆すべき取り組みもあり、地域との交流や連携が活発に行われている。まもなく開設して10年目を迎える中、長期に入居されている方も多く、様々な役割を担いながら生活する入居者の方々の矍鑠たる姿を拝見し、日々の暮らしぶりを窺い知る場面もあった。各種の記録様式や議事録は詳細に作成されており、支援の根拠や背景を求めながら、家族とともに本人本位の検討を重ねている。現在、様々なネットワークを活かした取り組みも進行中であり、今後の福祉拠点としての活動の展開が楽しみである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H22年11月30日職員全員参加で実行可能の介護理念を作り上げ、毎朝運営理念と共に唱和している	運営理念のもとに、昨年、BS法を用いて職員全員で作成に取り組んだ介護理念を掲げている。作成の過程において、また日々の唱和において、共有、浸透が図られ、実践につなげるよう取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の殆どが併設施設からの入居であり、日常的にサークルや、行事、散歩時を通じた交流がある	広い敷地内にある法人施設全体として、町内会に加入しており、一つの組を成している。敷地内のゲートボール場を地域のサークル活動の場として提供したり、夏祭り、園遊会、地域健康促進会等の活動を通じて交流を図っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者見守りネットワークに参加、町のグループホーム交流会などの働きかけを行っている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス評価を受けて、改善点を報告、参加委員の意見を活かしサービスに反映している	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、小竹町役場職員等の参加により、定期開催されている。運営に関する報告や委員からの情報提供のもとに、活発な意見交換が行われており、サービス提供や運営への反映に努めている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は行政の「高齢者対策委員」の役を担っており行政との連絡を密にとっている。毎月の広報誌を他の事業所に配布して頂く等の協力を頂いている。	小竹町グループホーム談話会や、事業所ネットワークを通じた様々な活動の中で、行政担当者との連携や情報共有を図っている。また広域連合ネットワークを活用した取り組みもあり、地域づくりの観点からも今後の展開が大いに期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会があり、職員が委員となって、研修会を開催している。	内部研修の実施や、概ね2ヶ月ごとに開催される法人としての身体拘束委員会での活動を通じて、全職員の理解を深め、共通認識を図っている。車椅子の使用に関することや言葉による抑制についても意識を持ちながら、生活環境の工夫や家族との連携を図り、拘束の無いケアに取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを含め、身体拘束について研修を行っており、出入り口は常に開錠している。	

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加しており、テキストや研修資料を利用して内部研修を実施している。	権利擁護に関する制度について、これまでに活用に至った事例は無いが、入居契約時の説明やパンフレットの配布等による情報提供を行っている。研修計画の中に位置付け、継続して学ぶ機会を確保している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書・重要事項説明書について理解・納得していただくよう充分時間をかけている。解約時には誠意を持って、納得して頂ける様対応している		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に利用者・家族代表・行政の職員・民生委員が参加、意見・不満・苦情を述べる機会があり、外部への発信がある。家族会や3ヶ月毎のカンファレンスへ家族が参加、個別に意見・不満を聞いている。苦情への相談窓口を玄関の掲示板2箇所明示している。	ホームの様々な行事にあわせて家族会を開催しており、毎月の支払い時や日々の来訪時、家族アンケートの実施、運営推進会議等も含め、積極的に意見や要望を収集している。ホームの通信「敬寿だより」は、家族の協力を得て作成されている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回運営者・管理者参加の職員会議を開催し、意見や提案を聞いている。備品購入やリフォーム等、積極的に反映させ実行している。	毎月の職員会議や職員懇親会(全員参加)の機会を設け、積極的に意見や提案を収集しており、議事録からも活発な意見交換が行われていることが確認できる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成21年度から人事考課制度を社会保険労務士の指導により研修を行っている。23年度から本格的に導入の予定である。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当っては性別年齢の区別を行っていない。採用後も能力に応じた業務で力を発揮できる様配慮している	職員の採用にあたっては、意欲や意識、人間性を重視しており、年齢や性別による排除は行っていない。内部研修の実施や外部研修参加時のサポートを行い、スキルアップへとつなげている。趣味や得意分野を活かした、野菜づくりや花づくり、レクリエーション活動等を通じて、能力を発揮する場面がある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、人権教育・啓発活動に取り組み、人権に関する研修があれば必ず参加させている。研修を受けた職員は参加できなかった職員へ伝達学習を行い、常に利用者の尊厳を守ることを意識している。	権利擁護、倫理・法令遵守、認知症ケア、高齢者虐待防止等の内部研修を通じて、人権教育、啓発に努めている。また、外部研修の案内を行い、伝達を行っている。	

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は希望する研修に参加できる機会を得られる。又研修内容は全職員が共有できるよう、資料の回覧・勉強会を行っている。働きながら資格を取る為の勤務調整を行い、新人はトレーニングにより育っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の「グループホーム推進会議」の開催を行政に働きかける等積極的に取り組んでいる。又直轄地区徘徊ネットワークに参加や、法人の行事への参加を呼びかけ同業者相互の交流・連携を活発に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、自宅訪問やお茶の時間等に招待しながら、お話をする機会を持っている。ご本人が納得し、充分馴染んでから入居できるよう工夫している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、ご家族と面談し、不安な事や困っている事を伺う機会を持っている。又ご本人と一緒にお茶の時間を過ごして頂く等話しやすい雰囲気作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期にはご本人・ご家族から話を伺う機会を多く持ち、困っている事に着目し、必要な支援を見極めるようにしている。必要であれば地域のケアマネージャーとの連携が取れる体制にある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者からは他人への気遣いや配慮など学ぶ事が多い。又ご本人の意欲を大切に、得意な家事に参加して頂いている。野菜や花作り、裁縫や料理の仕方、味見等を頼り、夕食後の語らいの一時には人生の先輩としての助言や気配りをして頂いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にカンファレンスを行う事で、共に悩み考え助言を頂いたり、行事では計画立案・食事やゲーム等にも参加、外出先では家族以外の利用者の手を引いて歩く事もあり、とても喜ばれている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや、地域の行事への参加で関係を継続している。時には家族が参加してのドライブも行っている。	入居者、家族の関わりを大切にしており、家族が来訪する機会も多い。お彼岸参り等への外出や馴染みの場所での買い物、ドライブを支援している。	

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	お茶の時間にご利用者同士が誘う声かけを行ったり、 就寝前の一時に、お部屋を訪問しあっておられる様 子を職員は見守っている。又、気の合う方が隣合うよ うに座る位置にも配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や訪問して頂ける様、関係を継続 に努めている。又移園された方には先の職員と連絡を 取り連携に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にセンター方式アセスメントを記入する事で暮 らしに対する意向や思いを把握する努力をしている。又 意思表示が困難な方への関りの中で、反応・表情によ り意向を汲み取るようにしている。情報は申し送りや個 人日誌に記録。	職員によるセンター方式を活用したアセスメントが行 われており、随時更新も行われ、思いや意向の把握につ ながっている。日々の記録には、本人の言葉が大切に 残され、また家族の参加するカンファレンスの記録から も内容の充実が確認できる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が訪問した機会やカンファレンス時に生活歴や 趣味・好みの情報を得るようにしている。入所時のセン ター方式を活用し意向を把握している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	日々の記録・カンファレンス・職員会議等により情報 を把握し個人のやりがいや拘りを大切に意向に沿った 支援に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞ れの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を 作成している	3ヶ月毎のカンファレンスに家族が参加し、述べられた 要望・訪問時の意見等を計画に反映している。職員は アイデア・気付き・意見を常に出し合い、介護計画に取 り入れている。	本人の主観的情報を大切に捉えた簡潔、明瞭な個人記 録や、家族や時には本人も参加する詳細なカンファレ ンス議事録からは、本人本位の検討が行われていること が伝わる。主治医の意見も参考にしながら、サービス内 容が個別、具体的に示されている。3ヶ月毎及び変化に 応じて見直しを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日総研の「記録の教室」を教材に職員が各自学習し、 個人記録を充実・活用に努めている。又、情報は実践 ・検討し、随時介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じて通院や送迎を柔軟に支援している。遠方から面会にいられた家族へは意向に配慮しながら、臨機応変に食事の提供等の声かけもしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防法に基づき、消火・通報・避難訓練を年2回、消防署と連携して開催している。サークル活動・理容・美容に地域のボランティアが参加、学童や保育園児が行事に参加し、交流が持てるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族との話し合いにより受診方法を決めている。必要時には協力医院による受診が週1回可能となっている。	家族のかかわりも大切にしながら、本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。今年度は、医療連携体制加算の取得を予定している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に、必要時相談を行い健康管理や対応の助言を頂いている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常を良く知る職員が付き添い、本人の特徴を伝え、混乱防止に努めている。退院に向けて連携を取りながら情報交換している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に説明を行っている。必要時には本人の意向を確認しながら、家族・職員・嘱託医と方針を共有し早い対応に努めている。	入居契約時に、重度化や終末期に向けた対応方針について、法人内の連携体制も含め、説明を行っている。本人、家族の意向に寄り添えるよう、体制の整備に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で実施された、消防署職員による救急救命講習会開催(平成21年4月28日)に参加している。又マニュアルやフロムチャートにより周知し、緊急時を想定したオンコール応援体制を取っている。		

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成21年4月から毎月利用者と職員・地域の方の応援を受けて、消火・通報・避難訓練を実施しており利用者がスムーズに避難できるようになっている。又法人が水・非常食・毛布の備蓄を行っている。	毎月、入居者、近隣住民の参加する早朝出火を想定した訓練を実施しており、職員も交代で参加しながら、実践的な訓練を行っている。また、運営推進会議委員からの提案により、予告無しでの訓練実施も行われている。今後は、グループホーム談話会のネットワークを活用した災害対策についても取り組む意向である。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳や誇りを大切にする事業所の理念を常に意識しており、声かけの際にはプライバシーに充分配慮した対応をしている。記録等の保管・取り扱いには注意しており外来者に対しても個人情報の保護は徹底するよう管理者が指導している。	個々人に応じた生活習慣やこだわり、時間の流れ等を尊重した支援となるよう努めている。また、自己決定や役割を担ってもらう場面作りを、日常の暮らしの中で意識している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断力や表現力低下がある方でも、ご本人の言葉が引き出せるよう傾聴に努め本人の意思を尊重している。利用者は自身の拘りを持って暮らしており、職員は自主性を尊重した支援をしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の自主性・個性や拘りを尊重しており、起床時間・就寝時間や活動への参加等、個人の希望を重視した支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度理容・美容師が訪問している事をお知らせしている。衣類については好みの色等ご本人の趣味を尊重し、身なりにも配慮している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様が調理・盛り付け・片付け等得意分野で持てる力を発揮できる様一緒に行いながら支援に努めている。感染症発生時は食器を洗ったり拭いたり、後片付けを主にしている	法人としての給食会議や嗜好調査を通じて、様々な視点から「食」を検討している。本人の好みにより詰められたオリジナル弁当や、散歩中に蕨を摘んで一品作ったり、寄せ鍋やバーベキューを楽しんだり、「食」を楽しむ機会は多い。また、調理準備や後片付けの際にも、日課として、役割として力を発揮してもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事・水分摂取表を記録し、必要量が確保出来るよう支援している。又法人の栄養士が計算をしており、バラエティに富んだ食事会や外食等で楽しい雰囲気での食事を心掛けている。		

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・義歯洗浄を一人ひとりの必要に応じた支援に努めている。又歯科受診の必要性を見極め家族と相談し、支援を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入・活用し、トイレへの誘導を優先しており、家族との話し合いでオムツの使用量を少なくするよう職員間で認識している	各居室内にトイレが設置されており、プライバシーへの配慮については有効であるが、把握が難しくなるという反面もあり、職員個々の観察力を高めながら支援を行っている。排泄チェック表による状況やパターンの把握に努め、また個別のサインを見逃さないようにしながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、便秘に対しては散歩やヤクルト・牛乳により自然排便が出来る支援をしている。緩下剤を使用している方は量・回数を調整する等し、無理なく改善するよう支援している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望で常時入浴可能日としている。朝風呂を好む方や他の方と一緒に入りたい方等もある。断る方にはタイミングを計り他の職員と代わるなどご本人の意向を大切に、清潔保持に努めている。入浴されない日には足浴を実施している。	基本的な入浴日の設定はあるが、時間帯も含め、希望や状況に柔軟に対応している。浴室にも床暖房が設置されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方しない方其々の生活習慣を大切にしている。夜眠れない方には眠れるまで一緒に過ごし、日中の活動を意識する支援を行っている。又協力医の心療内科の医師に相談し指示を受けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が解り易い様に個人別薬内容表・個人別薬箱・投薬チェック表を確認し、誤薬や飲み忘れが無い様Wチェック体制を取っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	華道・カラオケ等のサークル参加や掃除・料理・洗濯物畳み・園芸等の生活習慣を維持しながら張り合いを持って暮らして頂く支援に努めている。又外出や毎日の散歩で気持ちよくして頂いている。		

福岡県 グループホーム 敬寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的に戸外への散歩を行っている。月に1度の家族参加のドライブ・外食やショッピングへお誘いし、出来る限り参加を支援している。</p>	<p>法人として広大な敷地を有しており、また、周囲にも自然が多く残り、グラウンドや森の中の散歩コース等に定期的に出掛けている。月2回の買い物の日を設けたり、外食、ドライブ等、積極的に外出支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ショッピング時に希望に応じてお金を所持して頂き、混乱される事のない様見守り、支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により電話を掛けるお手伝いや手紙の代筆を支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂は床暖房であり、皆様が集いほぼ一日中過しておられる。又床の間や玄関には利用者が活けた花が飾られ、季節感が感じられるよう工夫している。台所は開放型で中央部にあり、料理の匂いや音を感じて頂ける環境にある。</p>	<p>食堂や浴室は床暖房が設置されており、健康面や快適さ、安全性に配慮されている。和室には欄間や障子、床の間が設けられ、落ち着いた雰囲気となっている。また障子の張替えは、入居者の方々にも、力を発揮してもらっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルや椅子の配置を工夫しており、気に入った場所で気の合う方と過したり、一人で居眠りする場所を大切にしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内に馴染の植物や写真・仏壇が置かれ、安心して落ち着いた暮らしが出来ている。</p>	<p>書道の作品として表札が掲げられた各居室には、トイレ、洗面が設置されている。仏壇や筆筒、テーブルセット等の家具が持ち込まれており、趣味とされる生け花の作品が飾られる等、個人の部屋作りが行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建築内はバリアフリーとなっており、手すり・床暖房にて活動的に暮らせる環境である。又、お一人ひとりの拘りを尊重し、個人のペースで生活出来るように各居室内にトイレがあり、自立した生活をしている</p>		